

.....

# うきたむ考古通信

.....

2015年12月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
	〒992-0302 山形県東置賜郡高島町安久津2117
	電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

## 考古資料館主催事業報告

### 👤考古学セミナー

全体テーマ『縄文時代中期前葉から中葉の遺跡と遺物』と題した第17期考古学セミナーが終了しました。

前回報告しました10月11日(日)の第1回講座「山形県の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡の概要」渋谷孝雄(館長)、「置賜地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-台ノ上遺跡-」菊地政信氏(日本考古学協会)に続き、10月25日(日)の第2回講座では菅原哲文氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)による「村山地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西海淵遺跡-」、黒坂雅人氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)による「最上地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西ノ前遺跡-」が、11月8日(日)の第3回講座では須賀井新人氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)による「庄内地方の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡-西向遺跡-」、秦 昭繁氏(考古学研究者)による「山形県内の縄文時代中期前葉から中葉の石器」が行われ、山形県内の縄文時代中期前葉から中葉の代表的な遺跡の調査成果や、当時の生産用具についてのお話をお聞きすることができました。

受講者数は延べ52名で、その内考古の会の会員の方は延べ34名となりました。

### 👤企画展記念講演会

11月15日(日)に開催された阿部 明彦先生による『水木田遺跡にみる縄文時代中期前半の世界』と題する講演会では、休憩を挟んで3時間近く、山形県の縄文時代中期文化の成立と展開について詳細なお話をうかがうことができました。その内容については3月に刊行される「うきたむ考古」20号に掲載する準備を進めておりますので、ご期待ください。内容の濃い講演会でしたが会員の参加者の方が14名にとどまったことは、案内や宣伝に課題を残すこととなりました。

## ♥「ガラス玉をつくろう」

12月12日(土)に今年2回目の「ガラス玉をつくろう」の体験学習行われました。午前、午後とも4組の参加がありました。毎回、リピーターが多いのが特徴となっていた事業ですが、今回は、皆さんが初めての参加でした。形を整えることに苦勞していましたが、思い思いの色を重ねながら楽しまれていました。

## ♥「古代風ブレスレットをつくろう」

12月19日(土)に2回目の「古代風ブレスレットをつくろう」の体験学習が行われました。古代から人々の生活で使われてきた「麻」の紐を編んで、自分だけのオリジナルブレスレットを作る体験に8人の方が挑戦しました。

### うきたむ学講座事業結果

## ♥「うきたむ学講座」

生涯学習文化財団の補助を受けた「大谷地とその周辺の自然と歴史を考える」というテーマの1回目の講座となる押出遺跡の調査成果をめぐるシンポジウム「縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・交流」が開催されました。

1日目の28日は当館での資料見学会がありました。見学会では常設展に加え、1～3次調査資料で重要文化財に指定されている土器全点と木製品・漆製品、彩漆土器、4・5次調査の刈羽式土器を研修室に並べました。

普段は収蔵庫内に保管しているものを、1日限りでしたが、今回初めて一堂に並べて公開しました。当館での見学会の後、あいにく水没してはいましたが調査中の現地見学を行い、前日出土したばかりの彩漆土器を調査事務所で見ていただきました。

その後、シンポジウム会場である南陽市の「えくぼプラザ」に移動し、水戸部秀樹氏の「押出遺跡の調査成果について」、佐々木由香氏の「押出遺跡における植物遺体」の2本の報告がありました。

午後6時30分からは「いきかえりの宿瀧波」にて懇親会がもたれ、大いに盛り上がりました。

2日目の29日は、報告とコメント、討論が行われました。小島秀彰氏「福井県鳥浜貝塚について」、町田賢一氏「富山県小竹貝塚について」、小林圭一氏「押出遺跡における縄文前期遺跡との交流・接触」の3本の報告の後、阿子島功氏から「押出遺跡の古環境と生活面」のコメントが寄せられました。

午後から行われた討論では寺崎裕助氏から「新潟県刈羽式土器」についてのコメントが寄せられました。

シンポジウム討論では佐藤庄一氏がコーディネーターとなり、報告者とコメントーターから「縄文時代前期の集落構造」、「縄文時代前期の生業」、「縄文時代前期遺跡の接触交流」という三つのテーマに沿った議論が展開されました。結論は求めないということでしたが、押出遺跡の盛土遺構の住居説、否住居説は会場からの発言もあり、今後どう検証していくか、いくつかの課題も議論となりました。また、当該期の東北南半の集落構造も調査例が少なく、今後の課題ということでした。

次に当該期の生業と低湿地遺跡では何を生産していたかということについての議論がありました。海に近い環境にあった鳥浜貝塚、小竹貝塚では出土品から漁撈、狩猟の実態が明らかにされていること、また、低湿地では木製品の製作、漆製品の製作が行われていたことが述べられました。押出遺跡では炭化物や炭化食品の分布からクッキーづくりが、また、漆附着土器から漆を使った作業や石器づくりが行われていたと述べられました。

シンポジウムの締めくくりとなった縄文前期の接触交流では、寺崎氏のコメントにあった刈羽式土器の問題、同様に遠隔地からの土器の流入、石器石材や翡翠や蛇紋岩などの分布からの交流範囲などについて意見が交わされました。押出の彩漆土器は諸磯b式の二つの段階に属するが、移入か現地製作かについては今後の検討課題であるということでした。

このような有意義で活発な議論が行われましたが、明らかとなった様々な課題の解決に向け、今後の研究が進展して欲しいと思います。なお、今回のシンポジウム資料集を当館でも頒布(A4版 105頁 頒価 1,500円)しておりますので、ご希望の方はお問い合わせください。

### うきたむ学講座事業予告

うきたむ学講座は引き続き下記の日程で開催されます。多くの皆様の参加をお待ちしています。受講料は各回とも600円です。

第2回講座 平成28年1月17日(日) 午後1時～4時

大谷地の成因と周辺の遺跡

講義①「大谷地の地質と地形」

山形大学名誉教授

阿子島 功 氏

講義②「大谷地周辺に立地する縄文時代草創期の遺跡」

東北芸術工科大学講師

長井 謙治 氏

第3回講座 平成28年2月28日(日) 午後1時～4時

大谷地周辺の生活と生物

講義③「大谷地の地質と地形(植物)」

前うきたむ風土記の丘考古資料館運営協議会会長

吉野 智雄 氏

講義④「大谷地の歴史と生活」

山形考古学会会長

佐藤 庄一 氏

### 館主催事業予告

## ♥「山形の考古資料検討会」

開催期日 平成28年2月7日(日) 13時から

会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

共 催 山形考古学会

参加費 500円

詳細は未定ですが、(公財)山形県埋蔵文化財センターや米沢市教育委員会、南陽市教育委員会、長井市教育委員会、東北芸術工科大学などが昨年度及び今年度に置賜地域で発掘調査を実施した遺跡の調査成果に報告していただく予定です。

# 考古学関係のイベントのお知らせ

## 東日本大震災復興に伴う発掘調査の成果報告会開催要項

### 1 趣旨

東日本大震災からの復興に向け、東北太平洋沿岸ではこれまでにないほどの大規模な土木工事が進められ、それに伴って埋蔵文化財の発掘調査も大規模かつ集中的に実施されています。

被災3県では全国の自治体から多くの文化財担当職員の派遣支援を受けながら、発掘調査が各所で進められ、歴史像の見直しを迫る成果が得られています。その成果を多くの方々に還元するとともに、復興に向けた大きな力とすることを目的とし、3回目となる今年度は下記の日程・会場で宮城・福島両県の報告会を開催することといたしました。

### 2 日時・会場

① 2016年1月30日(土) 午後1時30分～4時30分

宮城県名取市 名取市文化会館 中ホール

② 2016年1月31日(日) 午後1時～4時45分

福島県南相馬市 サンライフ南相馬 集会室

### 3 内容

#### ①名取会場

テーマ「宮城県における復興調査の成果」

1. 宮城県の復興調査成果と進捗状況 天野順陽(宮城県教育庁)
2. 石巻市羽黒下遺跡の調査成果 佐藤佳奈(石巻市教育委員会)
3. 多賀城市八幡沖遺跡の調査成果 村松 稔(多賀城市埋蔵文化財調査センター)
4. 山元町合戦原遺跡の調査成果 山田隆博(山元町教育委員会)
5. 宮城県における復興調査の成果と課題  
高倉敏明(東日本大震災対策特別委員会)

#### 6. 意見交換

#### ②南相馬会場

テーマ「復興調査でわかった福島県浜通りの歴史と今後の課題」

1. 福島県の復興調査への取り組みと今後の課題  
轡田克志(福島県教育庁文化財課)
2. 南相馬市の復興調査と成果 川田 強(南相馬市教育委員会)
3. 発掘調査でわかった浜通りの製鉄遺跡  
能登谷宣康((公財)福島県文化振興財団)
4. 旧警戒区域の復興調査の現状と今後の課題  
三瓶 秀文(富岡町役場)
5. 東日本大震災と日本考古学協会 渋谷孝雄 (東日本大震災対策特別委員会)
6. 意見交換

### 4 主催・後援

主 催 一般社団法人日本考古学協会

後 援 宮城県教育委員会、宮城県考古学会

福島県教育委員会、南相馬市教育委員会、(公財)福島県文化振興財団

福島県考古学会

# 事務局からのお知らせ

## その1 会誌「うきたむ考古」原稿募集締め切り

年度末発行予定の会誌 20 号の原稿を募集中です。現在までに投稿がありません。皆さんの会誌です。論文、研究ノート、短歌、俳句、川柳、紀行文等、何でも結構ですので投稿をお願い致します。締め切りは1月末となっています。

## その2 本会結成 20 周年を記念する事業について

本会が結成されてから 20 年が経過したことを記念して今年度の総会後に会員有志の方々から記念として、現在あまりにも目立たなくなっている考古資料館の位置を示す看板を寄付するという案が出されました。これまでに、各種法令による規制の調査や基本的なデザインの検討、見積もりの徴取などを行ってきており、案が集約されつつある段階となっています。最終的には土地所有者の高畠町の許可が必要となるため、決定は年を越すこととなりますが、次号において会員諸氏からの寄付を募るお知らせを出させていただくことになると思いますのでよろしくお願いいたします。

## その3 平成 27 年度考古の会自主事業について

考古の会が主催する自主事業の「遺跡を訪ねる旅」は皆様からの要望が少ないということで今年度は実施しないことに致しました。ご了承願います。

# 東北情報館



## 『おめでとう 吉祥の世界』

入館料 一般／900円 学生／400円 小中学生／無料  
1月9日～2月22日 本間美術館 TEL: 0234-24-4311



## 共同企画展 『私たちのたからもの

—モノから振り返る昭和の暮らし 終戦まで—』

入館料 一般／300円 大学生／150円 高校生以下無料  
12月12日～2月14日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111



## 企画展 『新着・収蔵資料展 未見！発見！秋田県！』

入館料 無料  
11月14日～4月3日 秋田県立博物館 TEL: 018-873-4121



## 企画展 『発掘された日本列島 2015』

入館料 一般／600円 学生／400円 小・中・高生／200円  
1月14日～2月28日

## 特別展 『海に生きた歴史—復興発掘調査が語る一万年の海との共生—』

入館料 一般／310円 学生／140円 高校生以下無料  
1月14日～3月6日 岩手県立博物館 TEL: 019-661-2831



## 企画展 『陸と海の“大洞式土器” —盛岡の縄文晩期とその周辺—』

入館料 一般／200円 小中学生／100円  
10月10日～1月17日 盛岡市遺跡の学び館 TEL: 019-635-6600